

【事業計画書】中間報告審査会

去る11月29日(土)、平成20年度「事業計画書」中間報告審査会が行われました。平成21年3月修了予定の院生が作成中の事業計画の中から、厳正な選考会議によって選ばれた8名がプレゼンテーションを行いました。審査員には池田弘総長、湯川真人学長、原敏明副学長、田中延弘研究科長、藤岡宥三演習委員長の他、外部審査員として産業能率大学講師の山本滋彦氏、事業創造キャピタル代表取締役社長の宇田賢一氏にも加わっていただきました。院生をはじめとする関係者には厳重な守秘義務が課され、発表中の入退室は禁止という張り詰めた雰囲気の中、8名は二年間の努力の結晶である事業計画の発表を行いました。ユニークな事業計画にうなずく場面も多かった一方で、発表後の質疑応答では審査員から鋭い質問や指摘が飛び交いました。その内容は発表者自らが認識する未完成の部分ばかりではなく、各分野の専門家がそれぞれの視点から見た疑問、つまり発表者が想定していなかった質問も多く含まれ、社会人経験が豊富な院生が返答に困る場面も見られました。

発表した院生は、この審査により2月の最終審査に向けて更なるブラッシュアップを重ねるための貴重なアドバイスを頂きました。開学して第二回目の修了生を輩出する今春以降、一つでも多くの事業計画が実現することが期待されます。



i n f o r m a t i o n

事業創造セミナー

大学院説明会と同日開催で、本学教員による「事業創造セミナー」を毎月開催しております。このセミナーは、本学への入学に興味をお持ちの方々に授業の一端を体験していただくためのものですが、同時に皆様に有益な情報を発信することも目的としております。入学予定の有無を問わず、セミナー内容に興味がある方はどなたでもご参加いただけます。

大学院説明会

事業創造セミナーに引き続き、大学院説明会を開催いたします。自らの入学をご検討中の方、後継者育成をお考えの経営者の方、社員教育に関心をお持ちの人事担当の方などはそのままご参加ください。

説明会スケジュール	時間
大学院の概要および演習について	30分
募集概要の説明(入試・奨学金など)	15分
校舎見学・個別相談	25分

※プログラムは変更となる場合があります。

事業創造セミナーのみ/大学院説明会のみのお申し込みも可能です。

【開催予定】

平成21年 1月24日(土)	10:30~11:30	事業創造セミナー 「不況下におけるブランドの重要性」 教授 信田 和宏
	11:30~12:40	大学院説明会
平成21年 2月14日(土)	13:30~14:30	事業創造セミナー「経営者の嘘と責任」 教授 佐藤 一也
	14:30~15:40	大学院説明会
平成21年 3月 7日(土)	13:30~14:30	事業創造セミナー 「米国発金融危機と新潟県経済産業の動向」 副学長・教授 原 敏明
	14:30~15:40	大学院説明会

入学試験情報

平成21年度春学期(4月入学) 入学試験日程

	入学試験日	出願期間
第4次募集	平成21年2月14日(土)	平成21年1月26日(月)~2月 5日(木)
第5次募集	平成21年 3月7日(土)	平成21年2月16日(月)~2月26日(木)
第6次募集	平成21年3月28日(土)	平成21年3月 9日(月)~3月24日(火)

募集概要 詳しくは募集要項をご覧ください。募集要項をご希望の方は、本学までお申し込みください。

お問い合わせ・資料請求・セミナー/説明会や特別講義へのお申し込み等はこちらまでお願いします。

URL ホームページから..... <http://www.jigyo.ac.jp/>
 e-mailから..... info@jigyo.ac.jp
 FAXから..... **025-255-1251**
 本学に関するお問い合わせ... **0120-250-171**



事業創造大学院大学

〈新潟キャンパス〉〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46 TEL:025-255-1250 FAX:025-255-1251
 〈東京キャンパス〉〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピリアタワー10階 TEL:03-5224-8288 FAX:03-5224-3722
 〈長岡キャンパス〉〒940-0047 長岡市弓町1-8-37 長岡情報ビジネス専門学校内 TEL:025-255-1250(新潟) FAX:025-255-1251(新潟)



事業創造大学院大学通信 Press

通巻
第14号

Published by Graduate Institute for Entrepreneurial Studies

2009年1月1日発行
編集・発行
事業創造大学院大学
広報委員会・事務局



【バックナンバー】
広報誌「J-Press」のバックナンバーは、
本学ホームページからダウンロードできます。

・contents・
表紙 今こそ事業創造の力を-危機を好機に-
p.3 客員教授による特別講義の報告
p.2 うおぬま会議の報告、うおぬま会議出席者のコメント
p.4 大学院トピックス、中間報告審査会、インフォメーション等



湯川 真人 学長・教授

— Yukawa Masato —

【担当科目】コーポレートファイナンス、経済特論

Profile

東京大学教養学部教養学科卒 新潟市出身。昭和43年に(株)日本興業銀行に入行し、要職を歴任。平成3年にJ.P.モルガン信託銀行(株)取締役、平成11年に興銀第一ライフアセットマネジメント(株)常務取締役、平成13年にシティトラスト信託銀行(株)代表取締役社長と、金融業界の第一線で活躍する。事業創造大学院大学副学長を経て、平成20年に学長に就任し、現在に至る。資産運用など投資銀行業務に関する豊富な経験と実践的な知識を有する。

「今こそ事業創造の力を - 危機を好機に -」

本学は、今年の3月に第2回目の修了生を送り4年目を迎えます。この3年間で私たちは様々なことを学びました。カリキュラムの構成、科目の内容、演習のあり方といった授業に関する課題だけではなく、学内の各委員会の活性化とその基となる院生の皆さんとの対話、また、対外活動のあり方などその範囲は多岐にわたります。私は、これらの経験と対話を十分に活かしながら、教職員が一丸となって本学の更なる改革と発展を目指していきたいと考えています。

事業創造とは何か。事業創造を実現するには何が必要か。そのことを少し考えてみたいと思います。私は、ビジネスを創造する力は、広い意味での「感性」にあると思っています。物事を多様に見る力といってもよいでしょう。事業に限界が見えたとき、これまで積み重ねた蓄積の本質をもう一度見極め、それを今おかれている環境とその展望の様々な角度から吟味し、新しい形での展開を探っていくという「感性」です。

事業創造の実現には「確信」が必要です。それは、自分がこれからやろうとしていることは、社会やそこに住む人々が真に求めていることである、という確信です。この確信を得るためには、企業経営や企業環境などについての十分な知識をもとに、様々な検証や試行錯誤のプロセスを経なければなりません。院生の皆さんが本学で学ぶ大きな意義の一つは、この点にあると言ってよいでしょう。そして、実現しようとするあくなき「情熱」。どのような事業も、成功に至るまでには多くの困難を伴います。そうした状況においても挫けることなく、強い心で立ち向かう情熱、これを忘れないでください。

周知のように、現在世界の金融・経済は大きな危機に直面しています。この危機がいつどのような形で解消され、経済が回復に向かうのか。現時点では、誰もそれを予測することはできませんが、相当期間景気の低迷は余儀なくされるでしょう。しかし、その過程で、経済や産業の構造、企業経営などのあり方に、大きな変革が求められるのは間違いありません。私は、こうした変革期にこそ、欧米に比して実物経済の力が強いとされるわが国の産業・企業の真の力が発揮されるものと信じています。そして、その力を十分発揮するためにも、日本の若い人々の「事業を創造する力」に大いに期待したいのです。

おわりに、今年11月、新潟において本学が幹事校となって第12回日本ベンチャー学会全国大会が開催されます。テーマは「地域活性化と地域発ベンチャー」とし、内容は新潟らしさを強く出したものにしたと考えています。皆さんの大きなご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



赤木 弘喜 准教授

— Akagi Hiroyoshi —
【担当科目】スポーツビジネス、演習(スポーツビジネスの創造)

Profile

東京教育大学(現筑波大学)体育学部卒。東北学院大学教養部講師・助教授を経て東北学院大学教養学部助教授。体育講義(健康とスポーツ)、現代スポーツ論、体育科学(スポーツマネジメント)他を担当。日本体育学会会員、(財)プロスポーツ協会「キャリアサポートセンター」運営委員会委員長。

健康ビジネスサミット「うおぬま会議」の報告

2008年11月13・14日、新潟県うおぬま地域(魚沼市・南魚沼市)において、健康・福祉・医療関連産業の様々な分野に関わる大学・企業・医療・行政関係者が集い、それぞれの分野での課題について議論し解決の方向性を目指す全国初の健康ビジネスサミット「うおぬま会議」が開催されました。健康・福祉・医療・関連産業はこれからの成長分野であり、食、農業、観光、ものづくりなど地域資源を活用した地域産業の主役となることが期待されています。

雲ひとつ無い、正に日本晴れと越後三山の紅葉が二日間の会議を盛り立ててくれました。

本学主催の個別会議である「健康とスポーツ」事業創造会議には、57名の参加をいただき、狭い部屋がぎっしり埋まり二時間半の時間があっという間に過ぎてしまいました。

今回のテーマは「スポーツ・アグリ・ファームの創造」とし、全国の農村地域の活性化に向け、「健康・スポーツ」と「農業」の融合による、地域複合アグリビジネスの創造について

議論いたしました。

最初に、本学・川辺統一教授が「複合アグリビジネスの構図」と題し、「食と農」に関する問題提起を行いました。その内容を踏まえて、発言者(パネラー)により、現在活動している事例をご紹介いただきながら、「うおぬま」から発信する事業創造のヒントについてご発言いただきました。発言者が10名ということで、時間の制約があり、お一人の発言時間が短かったことで、お一人お一人のすばらしい内容をもっとお聞きしたいというご意見が多かったことと、フロアとの意見交換ができなかったことが残念でした。

最後に、「グリーンライフうおぬま」提言(案)を満場の拍手で承認していただき、引き続き「健康とスポーツ」事業創造会議において内容を検討するとともに、「うおぬま地域」において具現化することを確認いたしました。

今後は、「グリーンライフ」に関する研究会を立ち上げるとともに、今回「うおぬま会議」に参加いただいた方々をはじめ、新潟県関係者ならびに「うおぬま地域」の方々と連絡を密にしながら、来年度の「うおぬま会議」に繋げていく所存であります。



「健康とスポーツ」事業創造会議・発言者(発言順)

- ①川辺 統一
事業創造大学院大学・アグリビジネス担当
- ②秋沢 志篤
株式会社エデュテイメント・代表取締役会長
- ③小野塚 喜明
塩沢版ダッシュ村・村長 観光カリスマ(国土交通省)
- ④中谷内 美昭
NPO法人GSA・チーム新潟キャプテン
- ⑤比佐 仁
㈱フィットネスアポロ社・代表取締役社長

- ⑥岩本 直樹
北里大学保健衛生専門学校 管理栄養科 講師
- ⑦大川 耕平
㈱スポーツ・代表取締役社長
- ⑧中野 恵子
「日経レストラン」副編集長
- ⑨玉田 樹
㈱ふるさと回帰総合政策研究所・代表取締役所長
- ⑩赤木 弘喜
事業創造大学院大学・スポーツビジネス担当

うおぬま会議に出席して



Participant COMMENT 01 1年 板垣 誠 (所属: 株北都)

秋学期で「健康ビジネス創造論」「アグリビジネス」「スポーツビジネス」を専攻しており、各先生方の薦めで開催を知り、(講義の一貫としても)参加させていただきました。

今まで、分野毎の「点」だけで活動や運営をしていた部分が、この会議を通して「線」で繋がれ、発展的に「面」となっていく、健康ビジネス関連の可能性と拡がり、より具体的にイメージ体感できました。

来年も是非参加したいと思います。また、「うおぬま会議」については、現在、仕事で携わっている無料情報誌「DEN」冬号内でも紹介していますので、ご覧いただければ幸いです。



Participant COMMENT 02 1年 桑田 耕栄 (所属: 株本間組)

勤務先がユニバーサルデザイン会議に関わっていることと、健康ビジネスサミットという新鮮な響きに惹かれ、今回の会議に参加しました。

「健康とスポーツ」事業創造会議では、地域資源を活用し、異業種・異分野、そして他地域の人々と連携して新しい事業を創造するところに大きな可能性を感じました。また地域活性化のため積極的に活動する方々の話に、本学の院生そして県民の一人として大いに刺激を受けました。



客員教授による特別講義の報告

Lecture Report

「未来予測」

平成20年10月4日(土)

成功の秘訣として、納得するまで「なぜ?」を繰り返し、未来に起こることを理論的に予測してその対策に取り組むことだと大平社長は語りました。不要といわれても厳しい農業検査をやめなかった信念、話題を呼んだTVコマーシャル制作の裏話など、これまでも消費者に知られているエピソードを切り口に奥深いところまで踏み込んだ講義でした。創業時から明確な未来像があり、そこにたどり着くための負荷はストレスではなく活力であったそうです。その前向きな姿勢に、勇気をもらったという感想が多くの聴講者から聞かれました。

【株式会社雪国まいたけ】 代表取締役社長 大平 喜信



「私の創業と第二創業」

平成20年10月18日(土)

TV通販業界の仕組みについて、お馴染みの「プライムショッピング」の映像などを交えて分かりやすく解説されました。異業種とのコラボレーションなど、ビジネスモデル構築のヒントが多く含まれた充実した内容の講義でした。これほどの業績を誇る企業がわずか四十数名の社員によって運営されているということも驚きであり、それを可能にしているアウトソーシングの積極的な活用についての話も参考となるものでした。創業初期の頃の資金調達の話などは非常に具体的なところまで語られた、臨場感のある内容でした。

【株式会社プライム】 代表取締役社長 田端 一宏



「企業経営に必要なもの」

平成20年10月25日(土)

企業経営に必要なものとして矢内社長が挙げたものの一つは、「変化に対していかにスピーディに対応できるか」。外部環境の変化への対応ばかりではなく内部環境(=社員の意識)の変化に対しても、節目となった局面で矢内社長が実際にどのように舵取りをしてきたかが具体的に語られました。また、学生時代の「雑誌びあ」創刊から現在に至るまでの経験や葛藤についての話の中では、成功の恩人ともいえる人についても触れ、人との出会いの大切さについて語られました。

【びあ株式会社】 代表取締役社長 矢内 廣



「市場構造の変革を勝ち抜く21世紀型IT経営のススメ」

平成20年11月8日(土)

本学(東京キャンパス)の「IT経営講座」で主任教授も務める上村客員教授が、成長しないこれからの市場で勝ち残るための経営戦略、そしてそれらを実現に導くIT経営について詳しく解説しました。もはや大量生産・大量消費の20世紀型戦略では通用せず、企業の規模を大きくすることよりもビジネスを継続させることのほうが重要という前提のもと、付加価値重視の戦略へ転換するための具体的な要素が語られました。過去の常識がこれからは非常識になることなど、21世紀の経営の難しさを感じさせる講義でした。

【ジャーナリスト/コンサルタント】 上村 孝樹



「ローソンチャレンジ」

平成20年11月23日(日)

講義の内容は世界経済の変化、これからの日本のあり方、ローソンの今後の戦略など多岐にわたりました。聴講者とのディスカッション形式による進め方は客員教授による特別講義としては異例でしたが、講義室の形状をうまく活かしたいという新浪社長自らの提案で実現しました。正面のホワイトボードを埋め尽くす文字がディスカッションの活発さを物語っています。新浪社長の幅広い経済の知識、経営者としての手腕、そして何よりも大勢の聴講者を巻き込んだパワーに圧倒された講義でした。

【株式会社ローソン】 代表取締役社長CEO 新浪 剛史



「失敗しない起業術」

平成20年12月6日(土)

税理士事務所の設立から現在に至るまでの経緯、顧客である企業の傾向など、自身の経験とデータに裏打ちされた理論がユーモアを交えて語られました。起業家の持つべき視点はマクロ的視点ではないこと、不景気でも知恵を絞ればビジネスチャンスはいくらでもあるということなど、発想の転換をする良い機会となったのではないのでしょうか。がむしゃらに努力するだけでは足りず「努力には方向性が必要である」という言葉がとて印象的でした。

【辻・本郷税理士法人】 理事長 本郷 孔洋



「セールスソーシング事業(代理店ビジネス)を確立した

平成20年12月6日(土)

アルファグループの挑戦~代理店と共に成長するビジネスをご紹介します~

アルファグループを成長させた過程を振り返り、その成功要因が語られました。講義で強調されたのは、「人がやらないことをやる」ということ。これは吉岡会長が大学時代に起業した理由でもあり、携帯ビジネスで成功した要因の一つでもありました。一つの成功に満足せず、永続的成功を目指し他の事業に参入するバイタリティには驚かされました。比較的新しい事業分野の話であることに加え吉岡会長のソフトな語り口もあり、起業が身近に感じられた講義でした。【アルファグループ株式会社】 代表取締役会長 吉岡 伸一郎

【アルファグループ株式会社】 代表取締役会長 吉岡 伸一郎



【今後の開催予定】

平成21年1月24日(土)	13:30~15:00	株式会社ディー・エヌ・エー 代表取締役社長 南場 智子
平成21年2月 7日(土)	13:30~15:00	NTTインテリジェント企画開発株式会社 代表取締役社長 佐藤 義孝
平成21年2月28日(土)	10:30~12:00	みずほコーポレート銀行 常務執行役員 中島 敬雄
平成21年3月14日(土)	13:30~15:00	学校法人新潟総合学園 事業創造大学院大学 総長 池田 弘

※詳しくはホームページをご覧ください。